

# 抗凝固薬の使い方

- 体外循環回路での血液凝固を阻止するために用いる

種類	特徴	半減期
未分画ヘパリン	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 通常は未分画ヘパリンを使用する</li><li>◆ 活性化凝固時間ACTやAPTTが投与開始前の1.5~2倍になるように投与する</li><li>◆ アンチトロンビンⅢの抗凝固作用を増強する</li><li>◆ 出血性病変がある場合・ATⅢ欠乏症・HITには使用しない</li></ul>	約1時間
低分子ヘパリン	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 軽度の出血傾向がある場合に使用できる</li><li>◆ 抗トロンビン作用が弱く、第Ⅹa因子活性を選択的に阻害</li><li>◆ 回路内での抗凝固作用を保ちつつ体内での凝固時間の延長を軽度抑えることができる</li></ul>	2~3時間
ナファモスタット (コアヒビター®)	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 出血傾向がある場合や手術前後に使用する</li><li>◆ 凝固系酵素の作用を抑制し抗凝固作用を発揮する</li><li>◆ アナフィラキシー、発熱、血球減少などアレルギーに注意が必要</li></ul>	約8分
アルガトロバン	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ ATⅢ欠乏症、HIT（特にⅡ型）の場合に使用する</li><li>◆ 合成抗トロンビン薬で、トロンビンの作用を直接阻害する</li></ul>	約30分